

議長

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

議長

次に、質問順位4番 8番議員 小林秀嘉君。

議長

小林秀嘉君。

小林議員

通告に基づきまして一般質問させていただきます。

いろいろ考えましたけれども、和木町の人口が少しずつ減少過程にあって、高齢者、まあ私も高齢者の一人なんですけど、増加していくということから始まりまして、質問させていただきます。

先般ちょっと他の用事で隣の町へ私が行きました。そうした時にその事務員の人と話をしていた時にですね、中年の女性でありますけども、「どこにお住まいですか。」とこう聞かれました。「和木町です。」と言いました。そうしたら中年の女性は、「自分たちがすごく羨ましい町だった。」という返答が返ってきました。そこではっと何かこう我に返るいうんですか、どっぷり浸かって私も約30年程引越ししてきまして、和木町に住むようになりましてけれども、素晴らしい町、住んでたらどっぷり浸かってさっぱり分からなくなってしまう自分いうものを、やっぱり直さないといけないと、このように私は感じました。

最近、和木町の町報いうんですか、広報紙を見ますけれども、いろんな部分が載っておりますけれど、やはり最後の人口ピラミッドいうのをもうちょっと工夫をして、この町をどうするか、どういう人口がなってるか、構成はどうか、やはり見てみると、男性が最初生まれた時から人口が多いいんですよ、途中から、70から越してきますと俄然女性が多い、男性がやはり平均寿命が80歳ちょっと過ぎて女性が87、8歳までいってる結果かと、私はこのように思います。そして高齢者がどんどんどんどん増えてく。そして町を見てる時にバスは走ってるけれども空気バス、言葉は悪いですよ、こうしていただいて

令和4年第2回(6月)定例会

おりますけれども、例えば5丁目まで走るようになりました。その結果ようけえ人が乗るようになったかいうとまたもう1回見直さないといけないんじゃないか、その無くせいう意味じゃありませんよ、やはり交通の時間帯とかいろいろなアングルから考えてやっていかないといけないとこのように私は思った次第であります。

「素晴らしい和木町」、とこう言ったらその羨ましい町、それがなんだろうかと考えました。やはり給食費の無料化、医療費いうところが一番に出て来るんでありますけれども、どこもができてない、この辺でどこもができてないのは下水道であります。とても素晴らしいものができて、毎日皆さん使うし、私ももちろん使っておりますけれど、これはどこもできません。まあ本当なら100%まで出来ておれば素晴らしい、超素晴らしいいうんですけど、まあちょっと99%ちょろちょろか分かりませんが、人口比でいったらそうなると思うんですけど、これが、先人が和木町が調子のいい時、すごく税収が上がった時に先人が決められて、こういった町をつくってもらいたいことをやはり考え直さんにゃあいけないと私はこのように思います。

それで、各課がありますけれども、和木町で教育費やったらどの課か、あるいは下水道だったらどの課かといろんな特徴があります。前回の私は質問、水道のことで質問しました。その時に水道は県下で2番目に安いですよ、1番の時もありましたよと、こういう返答でした。それで我々は当たり前のように水を使い、当たり前のように値段を払っているんでありますが、私はホームページなんかには、やはり和木町が誇れる町ということで、やっぱりいろんな課で取り組んでいただきたい、斯様に思っただけで質問する事に決めました。

いろんなところを見ますと、確かにその教育、給食費とか医療費なんかは隣の町もするようになって少し影響が出ておりますけれども、人口の減少はそんなによその町に比べて減る訳ではありません。しかし人口の増えている町もありますよね、山

令和4年第2回(6月)定例会

口県では下松ですよ、そのかわりその光市とか周南市とかいうところは減っておるんですよ、そっちらの方に増えていく傾向が多分にあります。

隣の県でいいますと、府中町とか海田町、まあ広島市ももちろん人口増えておりますが、ただ郡部に関しては減っているのは確実であります。どこの町もそうですけれど一極、町の中の便利などに対しては人口がどんどん増えつつあるという気がいたします。東広島市に至りましては学校が3つ、広大を含め3つあります。やはりそういった面で人口が増えているんだな、そして働くところ、あるいは医療費とか子育てとか建物とかいろいろな分が必要になって、それが充実してはじめて人口が増えてく、そうした時に増えていくんですけど、本町においてはそれでは働くところはどこか、住むところはどこか、隣の町を見て見ると駅の裏側がすくすくっと高い高層ビルがどんどん出来ておりまして、表の方はそうでもありません。なぜなら広島の方へ働きに行くのが便利です。駅前におられる人に聞きますと、ビルの中におりますと車いらないんだと、もうすぐ買物も皆できますし、ほとんど何もしなくてもいい、だから車代もいらないし駐車場代もいらないという話を聞きます。ただし私がたまに外へ出てますと、空気が汚れてやっぱり臭いんですよ、工場群の臭いが、前は黄色い色してましたけど、無くなったとはいえやはり高層ビル、10階以上のところは大変臭っているゆう話を聞いている次第であります。

そこで質問の方に徐々に入っていきますけれど、まず人口増加するためにどういうふうな形のものをやってくるかということで1番目に入りますけれど、先日テレビで見ましたら周防大島さんが問い合わせですね、移住計画の問い合わせで500件から年間に問い合わせある、まあよく考えたら500件全部入ったら素晴らしいなとは思いますが、そういう訳にもいかないと思うんですけど、やはりどこもこの近辺の町は、必死になってこう都会の方から呼び寄せるという形のものをつくってやっております。まずお聞きしたいのは、本町においてそう

令和4年第2回(6月)定例会

いったところの問い合わせはどのような状態になってるかというところで課長にお伺いいたします。お願いします。

議長 渡邊企画総務課長。

渡邊企画総務課長 お尋ねの和木町における移住計画のお問い合わせにつきましてお答えします。

過去5年になりますけれども、平成30年度が1件、令和元年度が2件、令和2年度が14件、令和3年度が5件となっております。令和2年度にお問合せ件数が増えておりますが、この相談内容としては、コロナ禍の最盛期の中でリモートによる在宅勤務が可能となった業種の方から、住む場所を検討しているという趣旨のものが多くありました。次いで、多かったのが、地域おこし協力隊としての移住を検討している方からのお問い合わせでした。

ご質問の中で例をあげられました周防大島町への移住のお問合せは、主に漁業や農地・農業に関する事、海が見える等のロケーションのいい空き家の情報など、都会の喧騒から離れての「田舎暮らし」や「スローライフ」といった要素を求めている移住のお問合せが多いと伺っております。

本町としては、地勢的に周防大島町のようなニーズにお応えすることはできませんので、従来続けております給食費の無料化やこども安心医療費助成制度の継続など、子育て支援の面での制度の充実や、建設奨励金・住宅資金借入金利子補給制度、東京圏からの移住支援事業支援金制度の継続で、人口の定住及び流出の減を図りたいと考えているところでございます。

議長 小林秀嘉君。

小林議員 大体大方という点はわかりました。

それで2番目入りますけれども、本町から都心へ行くといえれば2時間ぐらいで、周防大島さんとは随分時間的に違う、私は思

令和4年第2回(6月)定例会

います。やはりリモート言うんですか、インターネット、こういったものの整備をしていけば簡単な話、いいんじゃないかという気持ちなんではありますが、どのような状況になっておりますか。お尋ねします。

議長 渡邊課長。

渡邊企画
総務課長 リモートワークを整備して転入者を増やせないかというよう
なご主旨のご質問でよろしいですか。

リモートワークを利用して転入者を増やすことはできないか
というご主旨でよろしいですか。

小林議員 それでいってください。

渡邊企画
総務課長 はい、総務省の「地方公共団体が誘致又は関与したサテライト
オフィスの開設状況調査」によりますと、2020年度末時点
で全国のサテライトオフィスの開設数は916箇所となっ
ています。単純平均しますと47都道府県ですので、1都道府
県あたり19箇所が存在しており、全国的にも非常に厳しい競
争状況と言えると思います。

また、近年は民間企業の参入も激化しておりまして、廃業件
数も同様に増加しているため、単純にブームに乗って導入とい
うだけでは、この厳しい競争に生き残れないのが現状でござい
ます。

成功事例を見ましても、美しい自然に囲まれた環境や、ロケ
ーションの優れた空き家の活用など、IT環境整備に加えてプ
ラスアルファの魅力を兼ね備える必要があるため、サテライト
オフィスの導入に当たっては慎重に研究する必要があると考
えております。

議長 小林秀嘉君。

小林議員

和木町は、先程恵まれてるいうんですか、私共が当たり前に過ごしておりますけれど、実際には、その下水道も直す時期が近づいて、その為にはやはり電柱を無くすいうんですか、これは中電との話し合いもありますけれど、歩道をもう少し拡げる、あるいは直線にする、うねうねとうねってるんですね、本町の歩道は、だから歩き難いいうんですか、どっちが主役かわかりませんが、そういった状態になっております。

本町を見回すと認定こども園ができ、そしてよその町と全然違うのは、集会所が多いんですよ、よそは例えば電気1つ付けるにしても、その町内の方で町内会の方で払っていかなければならない、こういうような状態になっておりますけれど、本町においては、殆ど町のおんぶに抱っこというような感じで、批判してる訳じゃありません、すごくありがたいことが起きております。だけどよそからの人から見たらそういったこと分かりません。どのようによその人にホームページでアピールするかとそういう時代になっているのではありませんか。私はそういったことを充実、各課においてこうしていかれたらいいんじゃないか、例えば、禁句になってるかもしれませんが、敬老金の問題もそうです。全然表面には出てません。触ることすらできんような感じでおります。だけど大事な事なんです。なぜこのようにこう恩恵を受けるような町になっていくかということを考えてありがたい町であるということは殆どわかりませんし、あるいはよく見ますと、文化会館、文化のまち和木町なんですけど、文化会館に商工会がありますね、私もメンバーではありますけれど、やはりもう少し給食センターを直すとかなんかする時に、文化のまち和木町のセンターになることができるような構想を練ってもらいたいなと私は思います。

下松市が人口増える、確かに日立の製作所とかありまして、新幹線やら造っておりますし、人口が増えたりしておりますけれど、その中でもう1つ違ったことがあるんです。それは何かと言いますと娯楽施設言うんですか、あそこの文化会館のようなんがありますけど、あそこは素晴らしい建物になっておりま

令和4年第2回(6月)定例会

して、真ん中からこのせりあがりですね、何かしたときに、それが羨ましい訳でもなんでもありません。本町の文化会館も素晴らしい建物であります。近隣においてはナンバー1だと私は思っておりますけれど、とにかく回数行う催し物が一番多い町なんですよ、もうちょっと研究していただきたいな、活性化する町の1つ、文化のまち和木町です、先日絵画展もその近くでありましたけれども、ああいった事が常に行われるような町、そして展示会なんかしますけれど、遊んでいるの殆どですよ、何かにかできないかみんなで力を合わせてね、各課のところで進んでもらう、商工会にしてもですね、どこかで商工会のところが出るような場所があったらいいんですが、狭いですから、あそこに辛抱してやってるということわかりますけれど、やはり同僚の議員も古文書のことでも質問されておりますけれど、文化会館やらにあったらもっと見に来る時が多々あるんじゃないか、あるいは部屋もそうですけど、教育委員会が入ります。私が初めてここに、この町へ足を踏み入れた時に、教育委員会は、私が見た時は、私共の事務局のところにいられたのを覚えています。文化会館も出来て新しかったですから、そういった記憶はありますけれど、もう1回本町の事なんです、どうあったらいいかとかどうしたらいいかとかももう少し考え直してアピールできるようなことを取り組んでいただきたいと、せっかくのいろんな分が1位になったり2位になったりして和木町はありますけれど、それを推進してホームページに出してはいけないことと出してもいいこともありますけども、そういったことが町民に分かるように、そして他の町の人にも分かるように、やっぱりこれはホームページしかないんじゃないか、最近の流行ですよ、これでアピールしてやって行くことが必要なんではないかと私は思っておりますが。

それでは3番目入りますが、移住する条件として子育てとか、まあ働くところをですね、教育、あるいは建物とかいろんな事が必要な状況になっております。空き家バンク登録の状態を課長にお聞きしたいと思います。

議長 渡邊課長。

渡邊企画
総務課長 まず求人、まあ働く場所のところからお答えします。和木町内全体の求人情報については、町の方ではちょっと確認はできませんが、毎年5月に「県内就職促進月間」というのがございますが、この時に、町内の主要企業や商工会に対して、雇用促進の要請活動を実施し、正社員求人の確保・拡大や町内への定住について、協力を依頼しているところでございます。

和木町における空き家バンク制度は、平成23年10月に創設されまして、平成27年度までに合計で5件の空き家の登録がありましたけれども、いずれも入居があり、現在は物件の登録がございません。

現在も、町内には空き家が散見されますが、基本的には不動産業者によって管理されており、その範疇の中で運用が成り立っているため、空き家バンクの活用までには至っていないものと考えられます。

議長 小林秀嘉君。

小林議員 詳しくお話しただいてありがとうございます。

それでは次4番目ですけれども、高齢者で車がなくなった場合に、タクシー券が出されていると思いますが、その内容、あるいは今後高齢者増えてきますけど、どのような感じで思っておられますか、お聞きしたいと思います。

議長 渡邊課長。

渡邊企画
総務課長 高齢者福祉タクシーの認定条件、交付の条件でございますけど、まず年齢が70歳以上で、ひとり暮らし又はひとり暮らしに近い状態である方で、かつ同一敷地内又は近隣にお子さん等が居住していない方。それと2つ目の条件で、年齢が65歳以

令和4年第2回(6月)定例会

上で、身体上又は精神上の障害等により、常時介護を必要とする状態にある方。それと年齢が75歳以上の方のみで構成される世帯の世帯主である方で同一敷地内又は近隣にお子さん等が居住していない方 こういった条件、3つのパターンがございますけども、こういった方々でいずれも町内に1年以上居住していることが条件となっております。

ここ3年の交付の件数でございますが、令和元年が222人、令和2年度は215人、令和3年度が223人でございます。

議長 小林秀嘉君

小林議員 ありがとうございます。これからはどんどん増えてくる可能性があると思います。

それでは5番の方に入ります。

最近の人口ですね、まあピラミッド見たら分かるといわれるんですけど、確かに見たら、楽しみをもって、あるいは苦しみをもってですね、人口が減った時に思うんですが、最近では5月1日号で見たら、うれしい事に人口が51人ほど増えてると思いました。何が、何が言うたらいけませんけど、誰がどういう形で増えたのかなと思いました。それでまず課長にお聞きしますが、その原因はどうだったんでしょうか。

議長 渡邊課長。

渡邊企画
総務課長 すいません、最初に5月に増えた原因ですか。

小林議員 6月はまだ見てませんので、わかりますか。

渡邊企画
総務課長 あれはちょっと、今年再開しましたベトナム人研修生の方が51人本町に転入して来ましたので、その分の増だと聞いてお

ります。

議長 小林秀嘉君。

小林議員 ずっと移住していただいたら6,100いくんだなあ思ってた期待していましたが少しガックリしております。

次に6番に入ります。

よく見てみると過去に町内の人口が8千人を超えている時があるんですね、見たら、よそから来たものにしてみたら全くびっくりするような数字であります、この8千人も今より町営住宅が多かったのか何が多かったのか良く分かりませんが、もう少し田んぼやら他のところがたくさんあったんじゃないか、今みたいに密になってるような感じではなかったんじゃないかと思ひまして、そのころのこういった条件で8千人を超える時があったのかということをお聞きしたいと思ひます。

議長 渡邊課長。

渡邊企画総務課長 本町の人口は、昭和50年の国勢調査で8,022名という統計記録が残っており、このときがピークであったかと思われまゝす。昭和50年当時の町内の世帯数は2,208世帯であり、1世帯あたりの人数が3.633人だったことになります。これと、令和2年国勢調査での比較をしますと、令和2年は、人口が6,034人、世帯数が2,476世帯ということで、1世帯あたりの人数が1.955 まあ2人を下回ってますね。こういったところで比較しまして、核家族化の進行により人口が減って世帯数が増えていると、こういった分析ができるかと思ひます。

議長 小林秀嘉君。

小林議員 ありがとうございます。その当時の小学校とか幼稚園の状況

をあるいは中学校の状況を教えていただけますか。

議長 渡邊課長。

渡邊企画
総務課長 昭和50年当時ですね、幼稚園は和木・瀬田・関ヶ浜に各1園ずつございました。それと小中学校においては各学年3クラス以上あって、当時の記録見ますと、0歳～14歳までの各学年の平均人数が約149人だったことが分かります。これに比較して令和2年、こども園、瀬田・関ヶ浜の幼稚園はなくなっておりますので、こども園が1園、小中学校は今全学年が2クラスですかね、0歳～14歳までの各学年の平均人数は66人、まあ半分以下に比較すると減っております。

議長 小林秀嘉君。

小林議員 ありがとうございます。素晴らしい人口だったんだな、そうした時に前回の質問した時に、水道料金がまあ県において2番目っておっしゃいました。それでありがたいんですけど、これ人口が減っていったらやっぱり水道代人口割でいきますから、水道代が高くなる恐れがあるので、この問題にちょっと深く関わってみようかなと思った次第であります。

ちなみに一番高いのはやっぱり夕張市なんですよ、破綻してますんで、すごく高い水道代を払い、あるいは市長にしても歳費をそんなにたくさんとれない状態になっているけれども、まあ生活しないといけませんのでおやりになってるいう事がわかってまいりました。

それでは7番の方へ移りたいと思います。

前も言ったと思うんですが、岩国市の外国人がこの駅の周り、近辺において殆ど見えなく、見られなくなったというんですかね、ちょうど向こうにすごい住宅ができてきているということもありますが、食べる、あるいは食べるいうのはわかるんですけど、食べるのも焼肉店がたくさんある程度で、買物も本当

令和4年第2回(6月)定例会

不便な町になってるんです。和木町においても買物はそこそこできます。しかしながらこう前も質問しましたが、やはり他のもんが欲しい思った時に不便な町ではあります。できたら車にしても何とかして医療センターあるいはまあいろんな大きなところへ買物に行くとかいう町であったらもっとよくなる、これはまあ理想的な話になりますけれど、私は今そう思います。その外人がいるということでありまして、よその町では、例えば下松市にしても、日立のところで見習いがおられるから外国人がおられるとか、あるいは東広島では、学校が3つもありますから、外国人がたくさんいるとか、そういったこともありますが、本町においてはなかなか難しいところがあると思います。難しいところがあるんですけれど、今ウクライナにおいて大変な事が起きておりますけれど、もし難民を受け入れることができるだろうか、難しいだろうな、いろんな面ですね、言葉はまず壁から始まりますから、ちょっと難しい、山口県ではどこがおやりになっているのか私は分かりませんが、ぼちぼちまあこの辺では鳥取の方が結構先住者が、ウクライナの先住者がおられて、まあ通訳もおられてそれが進んでるようでありまして、無理だと思います、思いますけれど受け入れることができるんだらうかということではちょっとお話ししていただけたらと思います。

議長 渡邊課長。

渡邊企画
総務課長 ウクライナ避難民については、出入国在留管理庁というところ、国の機関ですけれども、ヘルプデスクを開設して、ウクライナ避難民に関する相談や国の支援策等の情報提供、または自治体からの各種支援申し出の受付等を行っています。

本町では、ウクライナからの避難民を受け入れるための支援は今のところ特には行っておりませんが、外国人から転入の届け出があれば、当然日本人と同様に転入の手続きを行っています。

令和4年第2回(6月)定例会

ご参考までに山口県では、ウクライナからの避難民を受け入れるための支援策として、生活全般に係る相談窓口を設置し、県営住宅の無償提供を行うこととしている。と聞いております

なお、先程ちょっと申し上げましたが、ウクライナ難民ではないんですが、コロナ禍により中断されてました町内事業所による技能実習生の受け入れがこの4月から再開されまして、ベトナムから多くの研修生の方が転入をしております。まあこれは、本町が外国人の方々にとって暮らしやすい・住みよい町であることによるものだと考えているところでございます。

議長 小林秀嘉君。

小林議員 県の方の行政も出てこられてもなかなか一歩踏み出すということは難しいということは推測できます。

次に8番に入ります。8番の問題ですけれど、本町において人口分布見てますと、やはり瀬田・関ヶ浜の人口がこの和木町の、和木町和木のところですね、地区のところは人口増えているというのは徐々に分かってくるんでありますけれど、一番心配なのはやはり先程言いましたけど、車ですよ、全く車がなくなったらどうあるべきかということです。前から私は思いますけど、岩国市は1回100円、くるりんバス、高齢者乗ったら100円で岩国の駅前まで来られるとか、西岩国からでも乗ってたらぐるっと周ってまた100円でそのままいけるとか、まあ本町においたら町の中をぐるぐる周っておりますけど、何をどうしたらいいかということを実際にこれ考えていかないとはですね、もう入院するようになってからでは遅いんで、いろんな施策をやっておられてとてもありがたいんですけど、どうあるべきかということを真剣に考えていかないといけないと思います。

それで、私は先日ある人とお会いしまして、最近スマホ・パソコン、用語が全然わからん、どうしたらいいんだろうか。私たちが若い頃ですよ、若い頃には年寄りがようわからん、何が

令和4年第2回(6月)定例会

わからんかわかりませんが、そういわれておりました。時代の変遷いうんですか、推移いうことでもあります。本町においてもこう実行されてると思います。スマホ・タブレットまあ同じようなもんかしませんけれど、1つ1つタブレットっていうたら、最近タブレットという言葉よく出ますけど、錠剤ですよ、薬の、それがタブレットとついてこう一緒になりますよね言葉が。パソコン用語いうんですか、タブレット用語いうんですか、よくわかりませんが、スマホ用語ですか、いろんなアプリがあって、こういろんな形ができる、昨日も実はカメラでいろいろ撮ろうと思ったら、もうスマホで十分出来るということがよくわかりましたけど、わからないのがわかるというのはどの程度わかるかということが本当難しい時代になってまいりました。

能書きはちょっとにしましてそういった教室ですね、教えて貰える、特に若い人はそういうのはいらないと思いますけれど、やはり高齢者にとっては大変買物をするにしても、スマホですぐ買物できる、あるいは乗合バスにしても岩国市でもこの前出てましたけど、郡部の方は、乗合のタクシー、まあ500円を出したら乗れるようなことも岩国市さんでもやられるようになりましたけれど、こういった教室とか講座ですよ、どのようになっているか、あるいは今後どういうふうな進展あるかということを課長にお聞きしたいと思います。

議長 渡邊課長。

渡邊企画総務課長 小林議員ご指摘の高齢者等へのスマートフォン等デジタル機器の操作に関する教室、講座についてはですね、インターネットやパソコンを使える人と使えない人との間に生じる格差、情報格差とも言いますが、これを解消する策として、高齢者向けのスマートフォン講座の開催に係る経費を、本年度当初予算に計上しております。このスマートフォンの使い方講座ですが、携帯キャリア業者、大手4業者ございますが、こちらの社員の方を講師に招いて開催するもので、受講者には業者側が用

令和4年第2回(6月)定例会

意したスマートフォンを1人1台貸与し、実物の機械を手にし
ながら操作方法を学ぶ内容としております。

受講の内容としましては、スマートフォンを持ってない方、
また初めてスマートフォンをお使いになる方向けの入門編の
講座を想定しておりますけども、入門編を受講された方の意見
や、今後寄せられるニーズによっては、各種のアプリ操作やオ
ンラインショッピングなどの活用編の講座の開催も視野に入
れて検討を進めることとしております。

議 長 小林秀嘉君。

小 林 議 員 次の問題も重なってしまいますが、要は機器の貸し出しいう
んですか、機器は進歩が早くてなかなかついていけないんです
けれど、もし各自治会で、各自治会というてもたくさんありま
すからどこかでまとまってこう教える、貸し出す、そういった
ことができますか。

議 長 渡邊課長。

渡 邊 企 画 先程申し上げましたスマートフォンの操作講座なんです
総 務 課 長 今年度については、自治会ではなくてですね、現在、老人ク
ラ ブ 連 合 会 を 通 じ て どの位のニーズ、受講希望者がいるかを把握
しております。把握しようとしております。入門編の講座の開
催に向けて検討をしておりますが、来年度以降もニーズに応じ
て継続的に開催できるようにと考えております。

議 長 小林秀嘉君。

小 林 議 員 私の年代でそのスマホよりもまだガラケーなんですよね、そ
のガラケーが使われなくなる言いながらまだ使える状態、電話
を掛けることだけですから、ゆうんですけど最近になってらく
らく何とかいろんな分ですぐ電話掛けられるスマホも出てお

令和4年第2回(6月)定例会

りますけれど、こういったガラケーの人たちをどうするか一回持ったら後生大事にずっとそれを使うということなんですけれど、こういった事も考え合わせて、またどれ位ガラケーがあるのかということも調べてまたいただいて、そしてこういった教室なり何なり進めていただければ助かると思います。ありがとうございます。

以上で終わります。

議長 再質問ございませんか。

小林議員 はい。

議長 再質問がないようですので、以上で小林秀嘉君の一般質問を終わります。